

町消防大会で229人が訓練成果競う

7月25日 照りつける太陽の下、仁淀中学校ほかで町消防大会が開催され、団員229人（15分団）と高吾北消防署員、大石弘秋町長、町議会議員らが出席しました。

まず吾川中学校グラウンドで今年の出初め式以降に入団した新入団員の辞令交付と宣誓、服装および機械器具の点検、分列行進などを行いました。

次に仁淀川町観光センター下広場で操法競技を行い、小型ポンプ操法、ポンプ車操法の2種目に計6チームが出場し、火災現場さながらの迅速な行動とチームワークで取り組んでいました。

午後からは川渡五所神社前の河原で、4競技（早出し放水、早掛け、中継放水、缶送り）が行われ、団員たちは日ごろの消防活動で培った技術を生かして機械器具を扱い、訓練の成果を競っていました。

成績は以下のとおりです。

操法(小型)
操法(自働)
森分団が中央大会へ出場
総合優勝は池川方面隊



小型ポンプ操法優勝 森分団



ポンプ車操法優勝 森分団

小型ポンプ操法

- 第1位 森分団
- 第2位 安居分団
- 第3位 名野川分団

ポンプ車操法

- 第1位 森分団
- 第2位 池川分団
- 第3位 長者分団

早出し放水競技

第1位 安居分団

早掛け競技

第1位 川渡分団

中継放水競技

第1位 池川分団

缶送り競技

第1位 用居分団

総合優勝 池川方面隊

高知県消防協会会長表彰(勤続章)

- 安部 和広(池川分団部長)
- 鎌倉 光明(中津分団部長)
- 片岡 武久(大崎分団班長)
- 隅田 昇一(大崎分団班長)
- 市川 昌明(池川分団班長)
- 藤原 幸彦(大崎分団班長)
- 酒井 孝介(安居分団班長)
- 大原 達也(大崎分団班長)

高知県知事表彰(永年勤続功労章)

- 北川 二三男(大崎分団班長)
- 大原 栄博(池川分団班長)
- 三本 順一郎(名野川分団班長)
- 片岡 明德(森分団班長)
- 中野 修二(狩山分団班長)
- 岡崎 昌史(寺村分団班長)

日本消防協会会長表彰(勤続章)

- 西森 信彦(泉川分団班長)
- 本澤 正太郎(沢渡分団副分団長)
- 西森 量男(用居分団副分団長)
- 浦木 元泰寛(池川分団副分団長)
- 吉村 文隆(別枝分団班長)
- 藤原 忠良(大崎分団班長)
- 松岡 貞男(別枝分団班長)

消防庁長官表彰(永年勤続功労章)

- 西森 信彦(泉川分団班長)

主な表彰関係者

写真左から釣井団員、川上団員、藤野団員、久原団員



○新入団員

- 川上 直人 (長者分団)
- 藤原 太一 (池川分団)
- 藤野 義輝 (安居分団)
- 釣井 諭 (池川分団)
- 久原 三明 (寺村分団)

だんだんの里の七夕まつり

8月8日 長者の大いちょう前の棚田で「第三回七夕まつり」が行われました。今年第三回七夕まつり実行委員会(西森勇幸会長)を立ち上げ、地域住民や長者小学校の児童、高知大学と北海学園大学(札幌市)の学生らも協力して、準備を進めてきました。

東古城山・西古城山地区では「東西古城七夕街道」が行われており、その飾りのほとんどは地域のお年寄りが楽しみに一年がかりで作ったものです。飾り付けをした前日と当日は時折強い雨が降り、西森会長は「紙で作った飾りが落ちては作り、落ちては作りの繰り返し返



みんなで準備中



し。今年は雨に泣かされた「した」と話されました。棚田に渡された二百以上の飾りの提灯約百八十個に明かりが灯ると、町内外から集まった大勢の人は、光が彩る優しい風景に歓声を上げていました。当日は「一圓想」による和太鼓演奏や地元有志によるギター演奏、カラオケ大会も行われ、観客は雨にも負けず拍手喝采。地元女性たちによる地場産品の出店も好評で、だんだんの里は大いに盛り上がりました。

風通るお堂で一休み

7月5日 この日から8月19日まで、上川渡の大師堂で、上川渡・戸立の住民による通行人へのお茶くみが行われました。

古くからの風習で、毎年上(戸立)から下(上川渡下)、下から上の順番を交代し、一日ごと当番の家が自家製茶とお菓子を用意し、立ち寄る人に振る舞います。

お堂は風通しが良く、暑い日には農作業などの合間に涼みに来る人もいます。

昔は集落の子どもたちの一番の遊び場で、学校が終わるとお堂へ走ったそうです。「釜で炒ったキビをもらい、固いけどなんともおいしくて、喜んで食べた」と昔話に花が咲く皆さん。「高齢化に負けず、これからも団結して伝統の『お接待』を続けていきたい」と話してくれました。

上川渡・戸立の「お接待」

お茶を飲みながら談笑する集落の皆さん



闇を照らす炎の輪

谷山の火回し



8月15日 谷山の一本木大師堂に今年も「火回し」が奉納されました。

火回しは古くから伝わる伝統行事で、大師の御利益に浸り、先祖の霊を迎えて、家内安全や豊作を祈ります。

3mほどのロープに松明たいまつを付け、両端に火をつけて空に向かって回すと、大きな炎の輪が闇に美しく浮かびあがりました。

ご年配の方にお話を伺ったところ、昔お盆ごろに日照りが続き、食糧(キビ・芋など)が不作で人々が貧しい生活になり「ここに食糧の種があるぞ」という目印に松明を回したという話を子どものころに聞いたそうです。

昭和初期には各地で行われていた火回しですが、近隣で現在も伝統が残っているのは谷山だけとなりました。

その谷山でも回し手の高齢化が進み、今年の最年長は80歳。それでも皆さん「伝統を絶やさんように、これからも続けていきたい」と意欲をのぞかせていました。

秋葉まつりにサントリー地域文化賞

サントリー文化財団では毎年、地域の文化向上に貢献した団体または個人を顕彰するため「サントリー地域文化賞」を贈呈する事業を行っています。

このたび、本町の「秋葉まつり」が第三十二回サントリー地域文化賞に選ばれました。八月四日、贈呈式の会場（東京都港区）には受賞の対象となった本町の「秋葉まつり」など、全国から五つの団体の関係者をはじめ、行政や報道関係など二百人ほどが参加し、サントリー文化財団の鳥井信吾理事長から盾と副賞が手渡されました。

今回秋葉まつりは、古い伝統を守りながら広く踊り子を受け入れるなど、地域に開かれた祭りとしての高い評価を得て同賞を受賞しました。

会場では、映像で秋葉まつりの紹介があった後、秋葉神社祭礼練り保存会の吉

岡郷継会長から「一年一年積み重ねて二百年となったこの祭りが、このような賞をもらえるとは先人たちも喜んでくれるはず。山里から里がなくならないようにみんなで頑張ってください」と挨拶を述べました。



贈呈式終了後に行われた受賞を祝う会には、選定調査に当たった大学の教授や、仁淀地区出身者、秋葉まつり関係者らが参加し、地域文化の重要性などについて語り合い懇親を深めました。

長者に続け！復活・織合の七夕飾り

8月12日 織合、太郎田、白石川の有志七人が集って、織合橋のたもと谷に手作りの七夕飾りを渡しました。

三十年以上前には、そばを流れる長者川に、毎年大がかりな七夕飾りがかけられ、集落の大人も子どもも楽しみにしていたそうです。

長者の七夕まつりに触発され「うちもやってみようや」と急がまとなり、たった二日間で七夕飾りを完成させました。

発起人の一人、織合区長の坂本元朝さんは「どうも土砂災害が起きませんように。それと集落に独身者がおるき、嫁さんが来て人口が増えますように。この二つの大きな願いをこめて七夕飾りを作りました」と話してくれました。

よく見るとペットボトルやインスタントラーメンのカップなどで作られた飾りもあり、お金をかけない工夫でいっぱい。「買うたのは色紙と短冊らあだけで。今はやりのエコやろ」と皆さん満足の様子。

「来年もやるき見きてよ」。そう話す皆さんの笑顔は、まるで少年のようでした。



扇を中心に、わらで作った雄馬と雌馬が向かい合わせに飾られています

地球のエコを皆で考えよう“地球のスライドショー”



7月17日 世界中を自転車で駆け回り、各地で地球の環境保全を訴え続けているエコロジストの松本英揮氏を招き、池川コミュニティセンターと中央公民館で「地球のスライドショー」が開催されました。

午前中の小中学生対象の部に約100人、午後に行われた一般対象の部に約30人が参加し、松本氏の講演「地球の詩とスライド」に耳を傾けまし

た。スライドでは、ドイツなどでの先進的な環境配慮の町の事例や、地球規模で進む地球温暖化の影響による海面上昇と砂漠化など、生々しい写真も交えて現状を解説していただきました。

松本氏とその目で見えてきた世界に触れ、たくさんの美しい地球の自然、自分たちにできるエコなど、たくさんのことを学んだ1日となりました。